

国際会議等参加旅費補助金報告書

2017 年 3 月 28 日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 神戸大学大学院
人間発達環境学研究科
博士課程前期 2 年

氏 名 今井昭仁



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	International Convention of Psychological Science 心理科学の国際会議
公式ホームページ URL	http://icps.psychologicalscience.org
開催期間	2017 年 3 月 23 日 ～ 2017 年 3 月 25 日
旅行期間	2017 年 3 月 22 日 ～ 2017 年 3 月 27 日 ※申請時と旅行期間に変更がありました
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Austria, Vienna, Austria Center Vienna オーストリア, ウィーン, オーストリア・センター・ウィーン
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	今井昭仁 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
発表題目 ※正式名と日本語訳	Belief in Pay Ratio: Reality, Estimation and Desire 報酬比率に関する信念：現実、推定と願望 ※申請時と発表題目に変更がありました
補助金額	80,000 円 (内訳 往復航空券代 112,370 円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、申請者が The 2nd Biennial International Convention of Psychological Science (ICPS) に参加するにあたり、日本心理学会国際会議等参加旅費補助金を頂戴致しました。厚く御礼申し上げます。以下、参加学会について報告いたします。

【学会概要】

ICPS は、Association for Psychological Science によって、隔年で開催されており、狭義の心理学だけでなく、隣接分野も含めた学際的な発表がなされています。今回は、2017年3月23日から25日にかけて、ウィーン（オーストリア）のオーストリア・センター・ウィーンで開催されました。

【活動報告】

申請者の発表は初日でした。開催期間中、様々な発表を見て回る機会に恵まれました。とくに印象に残った点は、以下の通りです。初日に行われた Keynote Address "Cognitive Evolution: People Are Animals Too"では壇上の発表者の隣で手話通訳が行われていました。Workshop などでは手話通訳はなかったため、全ての発表に手話通訳が配されているわけではないようですが、バリアを少しでもなくするという姿勢が見えたように思いました。また、初日の20時頃からはビール・ワインなどが会場で振舞われていました。そのため、お酒を飲みながら議論する姿が会場のあちこちで見受けられました。懇親会などではなく会場で飲みながら議論することに驚きましたが、このような方法で議論を促進することもできるのかと勉強になりました。

2日目には Sponsored Event の "Getting Your Paper Published: What You Need to Know" に参加しました。Publisher (Elsevier) や Editors が現在どのように査読を行なっているか、査読の際に何を考えているか、重視しているかといった点について主に Q&A 形式で議論がなされていました。査読プロセスについて普段聞けない話を聞くことができ、非常に有益な情報が得られたように思いました。

また、様々な研究発表を通してテキスト分析や傾向スコアマッチングなどの分析方法について応用事例から理解を深めることができました。とくに教科書などの書籍には掲載されていないような悩みや、統計ソフトについても具体的な情報を得られたことは大きな収穫でした。

【発表報告】

申請者は、3月23日の20時からのポスターセッションにおいて、"Belief in Pay Ratio: Reality, Estimation and Desire" という題目で発表を行いました。申請者の発表は、報酬比率の理想と現実に着目したもので、近年アメリカやドイツなどで政策的議論が盛り上がっています。とくにアメリカでは、2010年に成立した Dodd-Frank Act により公開企業に経営者の報酬と全従業員の報酬の中央値の比率の開示が要求されているなど、報酬比率は社会的な関心事となっています。本研究では、人々は報酬比率についての理想をもっているものの、現状の把握は的確とはいえないことを明らかにしました。また、人々は概してかなり小さな報酬比率を望んでおり、およそ20年間一貫していたことが示唆されました。

発表を行うことで研究の方法・分析について示唆が得られたこと、また、異なる国での研究状況についての情報が得られたことなど、非常に有意義な発表となりました。申請者の発表時間は、20:00-20:50 という遅い時間帯でしたが、会場には多くの研究者が残っており、活発な議論がなされていたことも印象的でした。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 6月 28日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 東京大学大学院教育学研究科
博士後期課程1年

氏名 太田 絵梨子



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	LEAD Graduate School Retreat Summer 2016 (LEAD 大学院主催 国際会議)
公式ホームページ URL	https://www.uni-tuebingen.de/en/research/forschungsschwerpunkte/lead-graduate-school.html
開催期間	2016年 4月 13日 ~ 2016年 4月 15日
旅行期間	2016年 4月 12日 ~ 2016年 4月 17日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Haus auf der Alb, Bad Urach, Germany (ハウスアウフデルアルブ, バード・ウーラッハ, ドイツ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	太田 絵梨子 (東京大学大学院教育学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The effect of making a connection between homework tasks and classroom lessons on students' mathematics achievement and their learning strategy use 授業と宿題の連動が高校生の数学成績および学習方略使用に及ぼす影響
補助金額	80,000円 (内訳 航空券代 110,440円の一部として) ※ 申請書では航空券代 104,790円としていましたが金額に変更がありました

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、LEAD Graduate School Retreat Summer 2016 への参加にあたり、国際会議等参加旅費補助金の申請を採択して頂きましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

以下、当該会議での活動内容および成果についてご報告致します。

(1) 会議概要

本会議は、German Research Foundation (DFG) が運営する LEAD Graduate School & Research Network という組織が年に 2 回開催している国際会議であり、期間中はキーノート・スピーカーによる講演や、グループディスカッション、ポスター発表などが行われた。参加者の多くは、教授・学習や発達に関わる研究を行っている博士課程学生やポスドクであり、拠って立つ領域としては心理学や経済学、社会学など多岐に渡っていた。若手研究者だけでなく、ドイツの学習科学研究を代表する教授ら (Ulrich Trautwein, Oliver Lüdtke など) も数多く参加し、立場の違いを越えて盛んに議論を行っていた。

(2) 自身の研究発表について

4 月 13 日の 16:30~17:45 にポスター発表を行った。発表題目は「The effect of making a connection between homework tasks and classroom lessons on students' mathematics achievement and their learning strategy use (邦訳: 授業と宿題の連動が高校生の数学成績および学習方略使用に及ぼす影響)」であった。本発表の内容は、申請者が修士課程在籍中に実施した研究の一部であり、実際の学校現場で授業および宿題に関する実践を行い、その教育的な効果について実証的に明らかにしたものである。発表中は、学生・教授を問わずたくさんの方が聞きに来て下さり、日本とドイツの教育現場における状況の違いや、理論的背景などについて活発な議論を行うことができた。

また、ポスター発表の他に、4 月 14 日の 16:00~16:30 にグループディスカッションの時間を頂き、宿題研究の権威とも言える Ulrich Trautwein 教授と 1 対 1 でのディスカッションを行った。Trautwein 教授からは、もう少し幅広く心理学の理論をレビューして自身の研究と関連づけること、および教育政策に対する示唆としてどのようなことが言えるかについて明確化することの重要性などについて、有益なアドバイスを頂いた。

(3) 会議への参加状況

3 日間を通して全ての講演を聴講し、最新の心理統計学の動向や動機づけ研究の概要などについて見識を広げ深めることができた。また、ポスター発表では 50 件近い発表が行われており、その全てを聞くことはできなかったが、身体運動と数学学習を関連づけた教育プログラムの開発研究や、オランダの保育園における子どもたちの発達など、幅広い領域の研究について情報交換をすることができた。

また、3 日間泊まりがけで開催されていたため、Social Activity の一貫として会場近くの城跡までハイキングをするなど、様々な活動を通して参加者らと親密な関係性を築くことができた。このように和気あいあいとした雰囲気の中で研究交流を行うことで、自然と関係性が深まり、何人かとは帰国後も連絡を取り合って共同研究をするにまで至っている。

以上のように、本会議に参加したことで自身の研究を見直す良い機会となっただけでなく、今後の研究につながる新たなネットワークを構築することができました。今回の経験を生かし、今後の研究活動をより良質で充実したものにすべく、引き続き精進して参りたいと思います。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 7月 7日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 筑波大学大学院人間総合科学研究科
ヒューマン・ケア科学専攻
3年制博士課程3年
氏名 増山 晃大

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies 第8回世界行動療法認知療法会議
公式ホームページ URL	www.wcbct2016.com.au/
開催期間	2016年 6月 22日 ~ 2016年 6月 25日
旅行期間	2016年 6月 21日 ~ 2016年 6月 26日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Australia, Melbourne, Melbourne, Melbourne Convention and Exhibition Center オーストラリア, メルボルン, メルボルンコンベンション&展示センター
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	増山晃大 (筑波大学大学院人間総合科学研究科) 望月 聡 (筑波大学 人間系)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The influence of context processing and task switching for depressed symptoms 文脈処理と課題切り替えが抑うつ症状に与える影響
補助金額	80000円 (航空券および宿泊費の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

【大会概要】

世界行動療法認知療法会議（WCBCT）は3年に一度開催される学術大会であり、第8回は6月22日から6月25日にかけて、オーストラリアのメルボルンで開催された。プログラムはワークショップ、シンポジウム、パネルディスカッション、口頭発表、ポスター発表などがあった。認知行動療法に関連する学術大会の中では世界最大規模であり、世界中の認知行動療法に関心を持つ研究者、実践家が参加していた。特に開催国のオーストラリアでは独立開業している心理療法家が多く、そうした実践家の方々が多く出席している印象を受けた。

【成果】

1. 研究発表について

申請者の発表は抑うつ症状と認知機能の関連を検討した研究をポスターで発表を行った。具体的には、大学生を対象とし、質問紙と認知課題を行ってもらい、多様な認知制御の中で経時的な処理で知られる文脈処理と課題切り替えが抑うつ症状にどのように影響しているのかを検討した。重回帰分析の結果から、文脈処理が課題切り替えを比較して抑うつ症状に強い影響を与えていることが明らかにされた。

ポスター発表中には、前述の通り、研究者だけでなく臨床実践活動を主とする参加者も多く、臨床的視点からの質問を多く頂くことが出来た。例えば、実際に認知リハビリテーションの治療ターゲットとして文脈処理や課題切り替えは考慮に値するのか、うつ病患者は認知機能不全が実際にどのような症状に影響を及ぼしているのか、またうつ病患者自身が実際に感じる困難さはどのようなものであると考えられるかなどであった。こうした質問や意見について、広くディスカッションすることが出来た。

2. その他の学会プログラムについて

多くのシンポジウムやパネルディスカッションに参加させていただいた。WCBCTではもちろん認知行動療法の効果や多様性についてのシンポジウムも多かったが、近年注目を浴びている認知バイアスへの介入、スマートフォンを利用した臨床心理学的介入（mHealth）をテーマとしたシンポジウムの多さが際立っていたように感じた。開催地であるオーストラリアでは国を挙げてmHealthの推進事業を行っており、申請者もmHealthに強い関心を持っていたため、実際の運用、心理学の研究者としての立ち位置、利用者の声や治療効果の報告など、最前線の知見や情報を得られた点が非常に有意義であったと感じている。

また大会初日のウェルカムレセプションでは、多くの研究者や実践家の方々と国際的な交流を行うことができた。申請者の研究内容についてのディスカッション、世界各国での臨床心理学の研究や臨床実践活動の実際を堅い雰囲気なしで話すことが出来た。しかし、あるオーストラリアの実践家はICP2016に参加するとのことで、横浜の案内を頼まれ、横浜の観光地を調べるといった近々の課題が出来てしまった。

最後に

この度は申請者の国際学会での研究発表にかかる旅費の補助をいただき、大変有難うございました。日本心理学会の関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。この学会で得られた最新の知見、申請者の研究に対する意見など、今後の研究活動に活かしていきたい所存です。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 8月 18日

(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 名古屋大学大学院環境学研究科
 社会環境学専攻博士前期課程 2年
 氏 名 多賀 禎



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 6th International Conference on Memory 国際記憶学会 第6回大会
公式ホームページ URL	http://www.icom2016.com
開催期間	2016年 7月 17日 ~ 2016年 7月 22日
旅行期間	2016年 7月 16日 ~ 2016年 7月 24日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Hungary Budapest Faculty of Science Campus, ELTE University ハンガリー ブタペスト ELTE 大学
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	多賀禎 ¹ ・小林正法 ² ・川口潤 ¹ (¹ 名古屋大学大学院環境学研究科心理学講座, ² 関西学院大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Individual Differences in Thought Control Ability and Item-Method Directed Forgetting 思考制御能力の高い人はよく忘れられるか? -指示忘却と思考制御能力の関連-
補助金額	80,000 円 (内訳:航空機代 114,130 円の一部として使用)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は, その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、公益社団法人日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金制度による助成を受け、The 6th International conference of Memory に参加し、ポスター発表を行いました。記して感謝し、以下のように報告いたします。

1. 学会概要

The 6th International Conference on Memory は、2016年7月17日～7月22日にかけてハンガリー・ブダペスト市・Eötvös Loránd Tudományegyetem 大学にて開催された。本学会は、数年に一度の記憶研究に絞った国際学会であり、今回は1000人を超える世界中の記憶研究者が参加した。報告者は、7月19日のPoster sessionにて“Individual Differences in Thought Control Ability and Item-Method Directed Forgetting”という題目でポスター発表を行った。

2. 自身の研究発表について

一般に、忘れること(忘却)は、「覚えたことを思い出せない」というネガティブな状態だと考えられている。しかし、忘却は多くの情報の中から、自分にとって重要な情報を選択的に記憶し、重要でない情報を選択的に排除するという適応的な能力の反映であるとも考えられている。この側面に関する代表的研究手法の一つとして指示忘却パラダイムがある。このパラダイムでは項目を提示後、項目を忘れるように教示(忘却教示)を与える項目、項目を提示後、項目を覚えるように教示(学習教示)を与える項目のそれぞれが設定される。その後、記憶テストを行うと忘却教示を与えられた項目の記憶成績は、学習教示を与えられた項目より低くなることが明らかになっている。

これまでの先行研究では、指示忘却が生じるメカニズムとしては選択的リハーサル理論と能動的抑制理論が提唱されており、どちらが正しいかは解決されていない。選択的リハーサル理論では、覚えるべき情報は繰り返しリハーサルして覚えようとするが、忘れるべき情報には何の操作も行わないと考える。一方、能動的抑制理論では、忘れるように指示された情報は、積極的、能動的に忘れようとする、すなわち記憶を能動的に抑制しようとすると考えられる。

そこで本研究では、指示忘却効果と思考制御能力の関連を検討し、能動的抑制理論が支持されるか検証した。結果、忘れるように指示された顔画像の再認成績は覚えるように指示された顔画像の再認成績より低くなり、忘却効果が確認された。しかし、指示忘却効果と思考制御能力の関連は見られず、指示忘却は能動的な抑制を必要としない、受動的なリハーサルの欠如によって起きる可能性が示唆された。この知見をもとにポスター発表を行い、海外の研究者に対して研究内容の説明だけでなく、意見交換や議論を行うことができ、新たな視点を得ることができ、今後の報告者の研究発展に繋げたい。

3. 学会参加状況

すべての発表が記憶に関係する内容であり、非常に興味深い研究の内容を聴くことができた。そのため、発表後の質疑応答では、本質を突いた質問がされるなど、自らの研究を発展させるような興味深い意見や研究を知ることができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。記憶に研究分野を限って開催されている学会ならではの場面に居合わせることができ、良い経験となった。また、本学会の発表テーマとして睡眠、consolidationを題材にした発表が多く、最近の記憶研究の動向を知ることができた。本学会の参加により、報告者は貴重な経験をすることができ、また今後の研究発展のための知見・知識を得ることが出来た。今回得た貴重な経験をもとに、今後も積極的かつ有益な研究活動を行っていきたい。

今回得た貴重な経験を今後の研究活動に役立て、今後も積極的かつ有益な研究発表を行って参ります。この度は誠にありがとうございました。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 8月 1日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 筑波大学大学院人間総合科学研究科
心理学専攻 博士後期課程
氏 名 田中 伸之輔

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Cognitive Aging Conference 2016 (認知的加齢会議 2016)
公式ホームページ URL	http://cac.gatech.edu/
開催期間	2016年 4月 14日 ～ 2016年 4月 17日
旅行期間	2016年 4月 14日 ～ 2016年 4月 18日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Westin Buckhead Atlanta, Atlanta, GA, US (アメリカ合衆国, ジョージア州, アトランタ, ウェスティンバッグヘッドアトランタ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	田中伸之輔 (筑波大学人間総合科学研究科), 杉本匡史 (筑波大学人間系), 小山明莉 (筑波大学人間学群), 原田悦子 (筑波大学人間系)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Two times usability testing before and after 2 weeks usage of skin care cosmetics: What can this method tell us about older adults' problems to use daily life things? (基礎化粧品の長期ユーザビリティテスト: 高齢者の日用品における使いにくさを考える際の方法論に関する検討)
補助金額	80,000 円 (内訳 航空機代の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は, その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、Cognitive Aging Conference 2016 への参加にあたりまして、日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。以下に、会議の概要、および自身の研究発表についてご報告いたします。

1. 会議概要

Cognitive Aging Conference は、2年に一度、アメリカ合衆国アトランタで行われている認知的加齢に関する代表的な国際会議の一つである。2016年の会議は4月14日～17日にかけて行われ、公式の発表ではないものの、500名程度の研究者が参加していた。本大会では、口頭発表は6つのテーマ（1. Longitudinal Research, 2. Metacognition, 3. Working Memory, 4. Mild Cognitive Impairment, 5. Motor, 6. Prospective Memory）、ポスター発表では上記に Emotion, Social Cognition, Neuroscience, Using Technology 等を加えたテーマについてセッションが設置されていた。会期中は認知的加齢に関する最新の知見が報告され、盛んな意見交換がなされた。

2. 報告者の研究発表について

報告者は4月16日、ポスター発表を行った。発表題目は「Two times usability testing before and after 2 weeks usage of skin care cosmetics: What can this method tell us about older adults' problems to use daily life things?（邦題：基礎化粧品の長期ユーザビリティテスト：高齢者の日用品における使いにくさを考える際の方法論に関する検討）」であった。4名の共同研究となっているが、報告者はこの研究報告の第1著者であり、またこの研究の主たる担当者として研究全体に責任をもって実施し、研究報告をまとめた。この調査は、高齢者12名に基礎化粧品Aシリーズ（メイク落とし、洗顔料、化粧水、美容液、クリーム、日焼け対策クリームの6製品で1セット）を渡し、2週間、自宅にて継続的に利用してもらうという調査であった。調査開始時と調査終了時の合計2回、ユーザビリティテストを行うことによって、基礎化粧品パッケージにおけるユーザビリティ上の問題を明らかにすることが目的であった。初回は実験室で、終了時は家庭訪問の形でユーザビリティテストをおこなったことも研究上の大きな特色である。

調査の結果、初回開封時に特有の問題や（箱を覆うフィルムの開封困難）、2週間たっても現れ続ける問題（キャップのあけ方を間違える（引っ張って開けるか、回して開けるか））が明らかとなった。さらに、事前調査で群分けされた基礎化粧品に対する興味関心の高群と低群では、自宅での利用方法が異なることが示された（高群：テレビを見たり飲み物を飲んだりしながら、座って基礎化粧品を利用する、低群：洗面台で、立ったまますべての基礎化粧品を利用する）。こうした結果を報告しつつ、事前質問紙調査、継続利用調査と訪問調査を組み合わせた方法の有用性を考察し、議論を行った。

報告者は1時間半の発表を行い、その間、学会参加者と議論を行った。特に、パッケージにおけるユーザビリティ上の問題を検討することは国・文化を問わず重要であるという指摘を受け、それを明らかにする方法論について意見交換を行えたこと。さらに（本研究での対象人工物である基礎化粧品を日常的に使っていると想定される）他国女性研究者から、本研究の方法論が基礎化粧品という人工物を対象とする際に有用であり、今後の展望として、文化的な差異を考慮することの重要性を議論できたことは、研究をさらに前進させる上で非常に有意義であった。

3. 他の研究発表や活動について

特に Longitudinal study セッション（口頭発表）では、数年にわたる長期調査を行い、知見を得るためのデータ収集方法やデータの解析方法について多様な新しい方法があることを学んだ。このセッションで得られた長期的調査の知見の自分自身の研究への適用を検討すると同時に、今後の研究を進めるうえでの重要な視点を得た。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016 年 8 月 30 日

(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名

大阪体育大学大学院 スポーツ科学研究科

氏 名

片上絵梨子



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity (NASPASPA, 北アメリカスポーツ・身体活動心理学会)
公式ホームページ URL	http://naspspa.com/2016-conference/
開催期間	2016年 6月 15日 ~ 2016年 6月 18日
旅行期間	2016年 6月 13日 ~ 2016年 6月 19日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Montreal, Canada/ Hotel Bonaventure (モントリオール, カナダ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	片上絵梨子 (大阪体育大学大学院) 筒井香 (大阪体育大学) 土屋裕睦 (大阪体育大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Impact of Received Support upon Athlete's Psychological Health: Different Roles of Coaches and Teammates as a Social Support Provider (受領されたサポートがアスリートの心理的健康に及ぼす影響 -サポート提供者としてのコーチとチームメイト-)
補助金額	80000 円 (内訳航空券代の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

国際会議旅費補助金を受け、2016年6月13日～19日にかけて、カナダのモントリオールにて開催された North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity に参加し、スポーツ心理学分野におけるポスター発表を行った。以下、補助金の使用状況、及び参加学会での活動内容とその成果を報告する。

【補助金の使用状況に関する報告】

補助を受けた 80,000 円は、往復航空券旅費(領収書添付)の一部として全額使用した。今回の学会前日に開催されたワークショップに参加するため、学会開催期間の 2 日前にモントリオールの会場に到着する旅程となっている。

【報告者の発表】

報告者は **【Impact of Received Support upon Athlete's Psychological Health: Different Roles of Coaches and Teammates as a Social Support Provider (受領されたサポートがアスリートの心理的健康に及ぼす影響-サポート提供者としてのコーチとチームメイト-)】** の題目でポスター発表を行った。

アスリートの心理的健康に正の影響を及ぼし得るサポートの種類とそのサポート提供者を特定することを目的とした研究であった。主な研究結果としては、単にサポートの種類の違いだけではなく、誰から与えられるサポートであるか、つまり、提供者の要因がサポートの有効性に影響し得ることが示された。これらの結果をポスターにまとめ、6/16 ポスター会場にて発表を行った。90 分の発表時間中、カナダやヨーロッパの研究者とのディスカッションを通じて、結果の解釈を深め今後の研究の可能性を考える貴重な時間となった。その中で、スポーツ場面における self-efficacy 研究などで著名な Dr. Feltz とスポーツ現場で生じる“パワーバランス”や上下関係が対人関係の在り方に及ぼす影響を考慮する必要性などを議論したことが印象に残っている。今回参加した North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity は、北米だけではなく、ヨーロッパからも多くのスポーツ心理学研究者や実践家が集うことから、研究と実践の両側面からディスカッションが交わされる点が学会大会の魅力の一つとして知られている。また、その研究対象も競技スポーツに取り組むアスリートだけでなく、スポーツ教育場面など広範囲にわたり、スポーツ指導者や保護者の立場からスポーツ場面における現象についてアプローチする研究者も多い。今回の学会に参加して、様々なバックグラウンドを持つ研究者や実践家と議論することにより、自身の研究について様々な視点からの意見が得られたことは、非常に貴重な経験であった。

【得られた成果】

今回の学会開催地であるカナダでは、スポーツ心理学領域におけるソーシャルサポートのレビュー論文をまとめた Dr. Nick Holt (University of Alberta) や、近年ソーシャルサポートの質的研究を行っている Dr. Gordon Bloom (McGill university) をはじめとして、スポーツ場面でのサポートに関する研究が幅広い視点から行なわれていることを実感した。2 人の研究者をはじめとして、ヨーロッパやカナダの研究者による研究発表を聞き、また意見交換が出来たことは貴重な経験であった。今年、オリンピック・パラリンピックの開催年であることもあり、それに関連した実践や介入の成果を報告するセッションなども多く見られた。また、オーストラリアの研究チームが行っている青少年を対象としたスポーツを通じたメンタルヘルス改善のプログラムは非常に興味深い内容であった。自身の発表以外では、6月16日に行われた大学院生を対象としたランチョンセミナーに参加した。セミナーは、Dr. Feltz をはじめとするスポーツ心理学の権威の先生方だけではなく、PhD を取って間もない若手の先生など7名の先生方のテーブルを大学院生が順番に尋ね、情報交換や研究・実践に関する質問ができる時間であった。70分という限られた時間ではあったが、共分散構造分析の最新のソフトの短所や長所についてなど、今後の研究に役立つ情報交換ができた。

【付記】

この度は、North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity へ参加するにあたりまして、日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金を頂きましたことを心より感謝申し上げます。今回の国際学会参加を通じて得た成果を活かして、今後も研究を進めてゆく所存です。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2017年 2月 18日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名

氏 名 金子迪大



□

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 18 th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology
公式ホームページ URL	http://meeting.spsp.org/
開催期間	2017年 1月 19日 ～ 2017年 1月 21日
旅行期間	2017年 1月 17日 ～ 2017年 1月 23日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	The USA, San Antonio, Henry B. Gonzalez Convention Center (アメリカ・サンアントニオ・ヘンリー・B・ゴンザレス・コンベンションセンター)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	金子迪大 (東洋大学大学院)・尾崎由佳 (東洋大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The need to belong and money saving: Inhibitory effects of loneliness on excessive spending *発表題目に変更あり
補助金額	80,000円 (内訳 交通費 97,866円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、申請者の国際学会への旅費等につきまして助成をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。以下、助成金使途、申請者の発表報告、および学会参加における各種発表やディスカッションを通して得られた成果などをご報告申し上げます。

【助成金使途報告】

申請者は2016年1月17日に羽田空港を発し、サンフランシスコ国際空港を経由して1月17日にサンアントニオ国際空港へ到着した。また、帰路は1月22日にサンアントニオ国際空港を発し、デンバー国際空港を経由して1月23日に成田国際空港に到着した。往復の航空券代として97,866円を支払った。補助を受けた8万円はこれらの旅費の一部として使用した。

【申請者の発表】

申請者は1月20日に“The need to belong and money saving: Inhibitory effects of loneliness on excessive spending”というタイトルでポスター発表を行った。本研究は近年申請者らが行っている所属欲求の欠如と時間割引の関係についての研究の一環として行われたものである。申請者らはこれまで社会的排斥の操作により時間割引率が低下することを見出したが、これは社会的排斥により所属欲求が一時的に満たされなくなった参加者が、自己の生存可能性を高めるために将来のことも見据えて総額がより大きくなる金銭報酬を選択することができるようになったためであると推測している。本研究はこの知見を拡張させたものであり、慢性的な所属欲求の非充足状態である孤独感が高い人が、将来を見据えてお金をたくさん使いすぎることが無いことを確認した。その結果、仮説通りに孤独感が高い人は孤独感が低い人に比べてお金を使うのが好きではないという結果が得られた。特にこの効果は未婚者で強く確認されたことから、結婚相手という社会的に頼ることができる相手がいないことが金銭使用を控え将来のために貯蓄する可能性を示唆するものであり、申請者らの推測に合致するものである。これらの知見はこれまで主張されてきたような、社会的排斥を受けた参加者は短期志向になるという仮説と異なる結果であるため、興味深い現象と言える。事実、多くの研究者が申請者の元を訪れ、研究内容について質問を受けるとともに、これまでの研究知見との異動、本研究の解釈、および今後の展開などについて議論を交わすことができた。

【各種発表による収穫】

本学会は社会心理学の最先端国であるアメリカでの開催であることから、多くの著名な研究者が参加しており、会場では各自がこれまでの自己の研究のまとめや、最新の研究データの紹介、さらに今後の展開などについて熱く語られていた。

1月19日に開催されたプレカンファレンスでは、申請者の中心的な領域である幸せを扱ったHappiness and Well-beingに参加した。このプレカンファレンスへの参加は初めてであったが、領域の今後を占うような発表が相次いだ。特に、これまで主張されてきたような幸せの概念に対する批判と、この批判をどのように乗り越えていくかというスピーチは、申請者も常日頃より頭を悩ませていることであり、問題意識を共有できる研究者がいることについての心強さと、申請者が現在検討している方法のひとつと類似した主張を行っていることを見て、今後の研究の方向性を確認できたと考えている。

また、申請者の今回の発表テーマに関係する発表もあり、人間関係が破綻した際に人がどのような反応を示すのかという研究の紹介は興味深いものであった。

【最後に】

申請者にとってSociety for Personality and Social Psychology (SPSP)の年次大会参加は3回目となる。国際学会に来て思うのは最先端の研究が多く扱われ、今後の研究領域の方向性が確認できるのは自身が研究者として時代から取り残されないためにも貴重な経験である。このような機会を与えて下さったことを心より感謝申し上げます。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2017年 1月 13日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
心理発達科学専攻 博士課程後期課程
氏名 山川 真由

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Psychonomic Society's 57th Annual Meeting 基礎心理学会第57回年次大会
公式ホームページ URL	http://www.psychonomic.org/annual-meeting
開催期間	2016年 11月 17日 ~ 2016年 11月 20日
旅行期間	2016年 11月 16日 ~ 2016年 11月 22日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Sheraton Boston, Boston, Massachusetts, USA (アメリカ合衆国・マサチューセッツ州ボストン・シェラトンボストン)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	山川真由・清河幸子 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Effects of commonality search on activated knowledge for idea generation 共通点の探索がアイデア生成のために活性化される知識に及ぼす影響
補助金額	80,000 円 (内訳: 渡航費 110,560 円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、Psychonomic Society's 57th Annual Meetingに参加するにあたり、国際会議等参加旅費補助金をいただき、ありがとうございました。以下に、活動内容等についてご報告します。

【学会概要】

Psychonomic Society's 57th Annual Meeting（基礎心理学会第57回年次大会）は2016年11月17日から20日にかけて、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンにて開催された。本学会では、基礎系の心理学領域（知覚、注意、記憶、学習、行動）に関して、シンポジウム、口頭発表、ポスター発表が行われた。17日夜のオープニングセレモニーに始まり、18日、19日にはシンポジウムや口頭発表が午前と午後に複数セッション並行で、ポスター発表が正午と夜の2回行われた。最終日の20日には、午前中にシンポジウムと口頭発表が、正午にポスター発表が行われた。本学会は毎年同時期に開催されており、報告者がこの学会に参加するのは3回目であった。

【自身の研究発表について】

・発表日時と発表領域

11月18日12:00~13:30にポスター発表を行った。発表領域は「推論と問題解決 (reasoning & problem solving)」であった。

・発表内容

本研究では、創造的なアイデアを生み出すための方法を検討した。創造的なアイデアを生み出すためには、対象となる事物を通常とは異なる視点から捉える必要がある。通常は、対象の持つ属性（特徴や機能など）のうち、目立つものから順に活性化が起きる。そこで本研究では、通常では着目しないような隠れた属性に着目するための方法として、一見関連がない2つの対象間での共通点の探索を提案した。実験には大学生46名が参加した。参加者は2つの条件に割り当てられた。半数には、2つの単語（具体物や生き物の名前）を同時に呈示し、それらに共通する属性を列挙するように求めた。残りの半数には、同じ単語を1つずつ呈示し、その属性を列挙するように求めた。列挙された属性の顕在性を比較した結果、1つの単語を見て列挙された属性に比べて、2つの対象の共通点として列挙された属性の方が、顕在性が低い、すなわち目立ちにくいものであることが明らかとなった。このことから、対象を通常とは異なる視点から捉えるためには、一見関連がない2つの対象間での共通点の探索が有効であることが示唆された。

・発表時の様子

発表を聞いてくださった方からは、実験手続きや評価方法などの詳細に関する質問や、分析方法などについてアドバイスをいただいた。さらに、この研究を踏まえて今後どのように発展させていく予定なのかについても質問を受け、「創造的なアイデア生成を促進するためにはどうしたらよいか」「この方法にどのくらいの効果が期待できるのか」などの点についてディスカッションをした。今後の研究に活かせる建設的な意見をいただくことができ、大変有意義であった。

【ほかの研究発表などについて】

今回は、例年に比べて、創造的思考に関連する研究発表が多く見られた。洞察問題解決に関する研究やマインドワンダリングに関する研究のポスター発表を聞いた。英語でのディスカッションについては、自身の研究の場合に比べて他者の研究の場合には非常に難しく感じた。今後も国際的に研究活動をしていくために、英語でのコミュニケーションのスキルをさらに向上させていきたい。